

気が付けば師走。 12月2日（火）のほほえみ交流カフェは年末恒例の音楽セラピスト、中川ともゆきさんのX'mas コンサート。 1年に1度の楽しみに集まつたのは

シニア	20名
講師	1名
葛が谷ケアプラザ	2名
葛が谷薬局	1名
スタッフ	8名 計32名



永井さんがお持ちくださった、季節のオーナメントで会場は華やかな雰囲気に包まれます。 スタッフの挨拶もそこそこに、中川さんの素敵なひと時の始まりです。



まずは冬を歌った懐かしの2曲。 その内の1曲「冬の夜」の2番の歌詞、「～過ぎし戦の手柄を語る～」から昭和9年の東海林太郎「国境の街」に繋がり、更にメロディーラインが酷似している「青い山脈」は昭和24年。 この年には美空ひばりの「悲しき口笛」、高峰秀子の「銀座のカンカン娘」。 銀座からはフランク永井の「有楽町で会いましょう」と東京ご当地ソングに続きます。 そして島倉千代子の「東京だよおっかさん」に歌われた地名3カ所を思い出すクイズ。



二重橋、九段坂そして3番は浅草。

聴く人の記憶を次々と手繕り寄せる中川さんの巧みさはますます磨きがかかっています。



この日は、葛が谷ケアプラザから原看護師と看護学部生の村司さんが参加していましたが、昭和37年、舟木和夫の「高校三年生」の ♪♪ フォークダンスの手を取れば♪♪ について聞くとフォークダンスは踊った経験がないとのこと。 フォークダンスと言えば、 さあ思い出しましよう・・・ 「オクラホマミキサー」「ジェンカ」「マイムマイム」 皆さん義務教育で散々踊った（踊らされた？？）ものです。

舟木一夫と言えば橋幸夫、西郷輝彦、元祖御三家。 橋幸夫の「潮来笠」は1年早い昭和36年。 西郷輝彦の「星のフラメンコ」は少し遅い昭和41年だそう。



同じ年には「星」繫がりで千昌夫「星影のワルツ」は愛しながらも別れる二人。

一方で、石原裕次郎は「夜霧よ今夜も有難う」で隠れてでも会い続けようと歌います。一体どうしたらええねえん。 同じ昭和41年にはピンキーとキラーズの「恋の季節」が大ヒット。帽子に手を添えて斜め下に頭を下げるポーズが印象的な振付けでした

翻って昭和52年には沢田研二「勝手にしやがれ」で帽子を放り投げます。

この年には米軍機が荏田近辺に墜落するという事故があったそうですが、筆者は全く記憶がありません。

紅白歌合戦で何度聞いたかも判らぬぐらいの定番

石川さゆり「津軽海峡冬景色」も  
同じ年。歌合戦と並んで歌謡曲関連の年末行事と言えば、日本レコード大賞ですが、昭和34年の第1回受賞曲は水原弘の「黒い花びら」だったそうです。



作詞：永六輔、作曲：中村八大の二人が手掛けました。  
これに歌手：坂本九を加えて六八九は世界的なヒット曲  
「上を向いて歩こう」や「見上げてごらん夜の星を」を  
世に送りだしました。

星から連想で、最初に宇宙に出た日本人は誰？

毛利さんではありません。 実はその前にTBS記者の秋山さんが宇宙にでているのですが、飛行士としてではありませんでした。そのドキュメンタリー番組のテーマ曲としてユーミンが「save on ship」という曲をリリースしているそうですが、あまり話題にはなりませんでした。





コンサートはいよいよ佳境、星そして空に因んだ、谷村新司の「昴」、松山千春の「大空と大地の中で」の熱唱で大喝采のフィナーレでした。 中川さん素敵なコンサート有難うございました。

存分に楽しんだ後は、グループごとにお茶とお菓子を楽しみながら、この一年間を振り返ります。 楽しい思い出が沢山出来た年だったでしょうか。

12月の誕生日は、なんと中川さんとスタッフの佐藤さんのお二人。 中川さん、ご自身のギター伴奏で Happy Birth Day. おめでとうございます。



そして、歌川さんの体操コーナーは脚を中心にトレーニング。人間の筋肉の三分の二は下半身にあるそうです。頑張って鍛えましょう。

最後は「ふれあい丘の街」を参加者全員で合唱、本年最後のカフェはお開きです  
皆さん一年間お疲れ様でした。良い良い年をおむかえください。